

様式第 1 0

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
香取広域市町村圏事務組合	香取市、神崎町、東庄町	平成 27 年度～令和元年度	平成 27 年度～令和元年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標		現状 (割合※ 1) (平成 25 年度)	目標 (割合※ 1) (令和 2 年度) A	実績 (割合※ 1) (令和 2 年度) B	実績 /目標※ 2
排出量	事業系 総排出量	7,454 t	6,463 t	6,910 t	54.9 %
	1 事業所当たりの排出量				
	生活系 総排出量	28,001 t	23,585 t	25,690 t	52.5 %
	1 人当たりの排出量	244 kg/人	181 kg/人	281 kg/人	-58.8 %
合 計	事業系生活系総排出量合計	35,455 t	30,048 t	32,600 t	53.3 %
再生利用量	直接資源化量	1,394 t	3,228 t	2,229 t	42.6 %
	総資源化量	4,852 t	8,004 t	7,378 t	71.9 %
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	— MWh	— MWh	— MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	t	t	t	%

※ 1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※ 2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合)/(目標の割合-現状の割合)を記載。

2 目標が達成できなかった要因

本計画により、長岡不燃物処理場をリサイクル施設として整備し、平成 27 年度に空ビン、空カンを集約するなど、施設の再編を行うことができた。また、平成 29 年度からプラスチック製容器包装の回収や発泡スチロール減容も開始するなど体制強化を図ることができた。

しかし、住民などへの普及啓発活動などが行き届かず、排出量及び再生利用量など目標達成には至らなかった。

生活系ごみは、環境教育、普及啓発活動により、ごみの減量化、資源化に対する意識が徐々に高まりつつあり、紙類、衣類布類、ペットボトルなどの資源物の回収量は年々増加傾向にあるが、組成分析の結果などを見ると依然として、雑がみ、プラスチック製容器包装など多くの資源物が含まれており、全体的には更なる推進が必要な状況である。

事業系ごみは、1 事業所当たりの排出量は目標を達成しているが、想定より事業所数の減少が少なかったため、総排出量は、目標を達成できなかった。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度：令和 6 年度まで

ごみの減量化、資源化には、住民及び事業者の意識改革と協力が必要であり、そのための更なる普及啓発が必要である。

- ・平成 31 年 3 月に作成した「ごみ分別辞典」の活用及びWEB サイト「ごみサク」を普及する。
- ・市町広報誌掲載やイベントでの啓発など、情報発信機会を増加する。
- ・大規模事業所など多量排出事業者に対して、減量・資源化計画書の作成を要請する。
- ・小規模事業者に対し、チラシなどを配付しごみの減量化、資源化の協力を求める。

(都道府県知事の所見)

目標を達成することができなかった指標について、「3 目標達成に向けた方策」を適切に実行し、早期に目標を達成する必要がある。